雪牢
氷獄

わたしはいつもひとりだった

おい
本当にイイのか？
コイツは例の「器」だろ？
構わん
暫くはお前達の好きにするが良い

雪牢氷獄

好きにすればいい…か
ちょっ 何よ 貴方たち…！
ああ
随分とご無沙汰だったからな
くちゅ
ズッ
正直助かるぜ
ひゃっ ちょっ・・・や！
ゲイッ
ビクッ
ふぐっ んふ！

んっ！
ぷはっ…
は…
おいおい何嫌がってんだよ
ちょ…っ
…ん
カー
これもお前のあなんだぜ
ひゃ…！
グイッ
やっ
やめなさいよっ
ひゅー
おっかねー
こんなに濡らしてよく言うよ
ははっ
やー
んぁ…っ！
ぱ

貴方達誰なの？
何でこんな
くちゅ
わからないかい？
俺達はあんた等の協力者さ
んっ
ひく
：協力者？
ま 何にせよアインノベルン様々だな
俺達外来もちゃんと持て成してくれるんだからな
はー
ははちげエねえ
んっ
くはぁ
おっと出すぞ
うぶっ
んぐっ
ビュ
ブ
残さず飲めよ

そうそう
ちゅ
ビュクッ
ゴクッ
んぐっ
はふ…
グポッ
はは、
何だ、やれば
出来るじゃないか
よし
いい子だ
ふは
はあ
しっかし本当に
コイツの魔力だけで
英霊を繋ぎ止めて置く
事が出来るのか？
くふっ
は…あっ
くちゅ
聖杯の降臨はまだ
当分先なんだろ？
そんな心配
俺達がすることじゃ
ないだろう
何よりコレはそのための
保険じゃないか
――そうか、この人達は
外来の魔術師なんだ
は一っ
グリ
使える魔力は多いに
越したことはないから
こっちはただ言われた通り
コイツを犯せばいいのさ
まあそうだな

うし
そろそろ頃合いだな
!?
や…っ
先に戴くぜ
おう
はは
嬉しいくせに
ずぷ
—でも
やめなさい
やめ…っ
やあ…あああ!
—って
狭いなオイ
こんなにトロトロの
くせしやがって
何で私なの?
何でこんな事するの?
まさか
処女か?
やぁ
はっ
あっ
そんな訳
あるかよ!
だめっ

そう言えばこんな噂を聞いたことがあるぜ
ズプ
アインツベルンの一族は優秀な血脈を保つために何世代も近親相姦を繰り返して来たってな
・あ
じゅく
じゅ
ははは狂ってンな
生まれてからずっと私は道具のように扱われて来た
だから連中の精は部外者には合わないんだと
血も濃ければ出す物も濃厚って訳か
こいつも半分は余所者って話だからな
あふっ
って事はもしかして
楽しい事なんて全然なかった
初物の可能性もあるわけだ
うあっ
はァー！
いつだって私は一人だった
うは！マジかよ！
ひゃあ

それでも
愛はあったのか？
ビュプッ
びくっ
いつか絶対自由になれるんだって
あ
キツ過ぎて良く判んねぇ
ん～
全てが終われば幸せになれるんだって
やーは
あ ああ
はあっ
は～
最愛の人にも裏切られた
そう信じてた そう信じられた
きゅうきゅう締めやがるぜ
そして
やあ…はっ
あああああぁぁあ～～
ははは いい感じだ
お イッたか？

それじゃあこっちもイカせて貰うぜ
ビク
ひゃあ…っ は…あぁ…っ
ど
ぷパっ
ビク
はっ
はは ビクビクいってやがる
本当はこんなの全然気持ち良くない
嫌がってたわりにエロいな
はふ
おい膣内に出すのは最後にしろよ
仕方ないから思考を止めて身を委ねる
ふぁ
へへ悪い悪い
でもイイだろ別に？これも仕事の内さ
それが一番苦しくない方法だから
ったくしょうがねぇな
痛っ
グッ！
お？

俺はこっちで我慢するさ
ビクッ
ひゃあっ！
ずぶっ
おいおい 初めてかも知れねぇってのにイキナリ後ろは可哀想なんじゃねぇの？
はぁ
はっ やめ
わからない
あー
なんでこの人達はこんな事するの？
先方の御希望だ
苦痛にも慣らしておく必要があるんだと
うへー
なんであの人は助けに来てくれなかったの？
やっ・・・やぁ・・・っ
ギシ
痛いか？でも英霊の制御はこれの比じゃないぜ
あっ
ずぶっ
なんで・・・？
かは
我慢しな
ギシ
ひぁっ・・はあああーっ

よし 俺もまた
協力してやるか
くちゅ
あっあぁー
ずずポッ
なんで私はいつも
こんな目に遭うんだろう？
グリュ
お前がしたい
だけだろうが
まあまあ
見ろよ 嬉しそうに
くわえてやがる
はぁっあ
俺ので
感じてるんだよ
誰も助けて
くれない
私はいつも一人
ケツでか？
ははは
淫乱だな
あ
お…？
ひとり…？

もう平気
もう痛くない
あは
初めからこうすれば
良かったんだわ
こうすれば
苦しまなくて
済んだんだ
そうかそれは驚くほど
単純なことだった
私は一人でも
生きていける